

# 復興へ変貌する街並み

2016年4月、熊本地震で震度7に達し舞鶴益城地区は、今復興に向け街並みが大きく変貌しつつある。町を東西に貫く熊本本高線も、熊本市が中心部木山交差点を境とし東へ向かって、熊本市の市街化区域で住宅・店舗・商業などが集中する九州自動車道の高架下を境として、益城町のほぼ全域が復興から再建に向けて動き出した。

## 益城町

復興計画を進める中、2016年4月、熊本地震で震度7に達し舞鶴益城地区は、今復興に向け街並みが大きく変貌しつつある。町を東西に貫く熊本本高線も、熊本市が中心部木山交差点を境とし東へ向かって、熊本市の市街化区域で住宅・店舗・商業などが集中する九州自動車道の高架下を境として、益城町のほぼ全域が復興から再建に向けて動き出した。

## 熊本地震（16年4月）

復興計画を進める中、2016年4月、熊本地震で震度7に達し舞鶴益城地区は、今復興に向け街並みが大きく変貌しつつある。町を東西に貫く熊本本高線も、熊本市が中心部木山交差点を境とし東へ向かって、熊本市の市街化区域で住宅・店舗・商業などが集中する九州自動車道の高架下を境として、益城町のほぼ全域が復興から再建に向けて動き出した。



復興地区面整理事業を控える益城町の木山地区一帯＝2018年12月26日（高見伸・三眞山雄三、小型無人機で撮影）

平成に起きた県内の主な災害

- 1980年 平成2年 熊本中部地震
- 2008年 平成10年 水俣市土石流
- 2011年 平成23年 九州北部豪雨
- 2016年 平成28年 熊本地震
- 2018年 平成30年 水俣市土石流

平成28年4月16日午後2時26分、熊本県益城郡益城町を中心とする熊本中部地震が発生。震源地は熊本県益城町益城、震源の深さは約10キロメートルで、最大震度は熊本県益城郡益城町で7に達した。死者は17人、重傷者は28人、軽傷者は100人以上、住家半壊は280棟以上、倒壊した建物も多数あり、大規模な被害をもたらした。

2008年7月、水俣市土石流

2008年7月、水俣市土石流

## 水俣市の土石流災害 08年7月

2008年7月、水俣市土石流

# 砂防ダムなど整備進む



「集落の奥の山から土石流が押し寄せ、一部の住宅や畑を全て押し流した」と話す木山利一さん。道路脇に「復興の礎」が立つ＝2018年12月、水俣市の室川内集落地区

## 減災へ 住民意識広がる

平成の30年間に起きた災害から、私たちが学び、次の時代に伝えていくべき教訓を、熊本くまもと水循環、減災研究センターの松田博貴教授(仮名)に聞いた。

「河川の堤防強化や、河川の堤防に防災カメラ、早期の避難呼びかけなどの早期対応が重要で、自然災害の脅威を痛感したのは、12年の九州北部豪雨と16年の熊本地震だ。九州北部豪雨は、90年の土砂災害で起られた砂防ダムが機能しなくなった。砂防ダムのない地域が被害を受けた。山地の危険箇所は多いが、行政の手当が不十分で、手付けの箇所が少ない。砂防ダムの整備を進め、砂防ダムの機能を高め、自然災害の脅威を痛感したのは、12年の九州北部豪雨と16年の熊本地震だ。九州北部豪雨は、90年の土砂災害で起られた砂防ダムが機能しなくなった。砂防ダムのない地域が被害を受けた。山地の危険箇所は多いが、行政の手当が不十分で、手付けの箇所が少ない。砂防ダムの整備を進め、砂防ダムの機能を高め、自然災害の脅威を痛感したのは、12年の九州北部豪雨と16年の熊本地震だ。」



熊本大 松田博貴教授に聞く

「一方、2011年の東日本大震災のように、」

2019年4月末で幕を閉じる「平成」。連載ではこの30年間、県内で起きた出来事や世相を振り返ります。今回は「交通新時代」。25日掲載予定。